



Title	<図書紹介>網本義弘「発想工学を知っていますか：『もし』が可能を創り出す」プレジデント社1993
Author(s)	日野, 永一
Citation	デザイン理論. 1994, 33, p. 106-106
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53290
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

網本義弘「発想工学を知っていますか—— 『もし』が可能を創り出す」

プレジデント社 1993

日野永一／兵庫教育大学

釘でも打てそうな固い頭の持ち主には、是非お薦めしたい“読む薬”である。

実例を2、3紹介しよう。

ウサギ小屋に住む日本人の理想に近い四人家族で100m²から割り出し、一人5m×5mで高さ3mのゆったりした空間を与えて、日本全人口の1億2千万の人間が一辺2,080mの立方体空間の中にすっぽり納まってしまう。——日本は広い！

受験シーズンになると有名大学の合格者は氏名入りで新聞掲載される。ところが大学生になってからは事故とスポーツ選手以外名前は報道されないから、本来の学習研究成果は親も社会も知らない。そこで合格者氏名よりも卒業研究の論文テーマと学生名を掲載したらどうか。研究のキーワード等も載せるとして一人4行、新聞一面15段のうち下5段を廣告部分としても1,000人の大学で5頁。その結果「親子の意思の疎通」から始まり、「大学格差の実質」が明らかとなり、「大学間の交流」が行われ、「学問論」が闘わされる結果「大学の自主改革」が自動的になされ、ひいては「受験教育の見直し」が提唱される。——卒業論文タイトル新聞掲載世直しの法

核家族化した今日、仏壇の不在によって家庭内宗教心が希薄となり、ランダムチョイスに近い結婚により夫婦の宗派が同じとなる確率も低い。お墓のコンパクト化競争に血道をあげるより、仏壇の新開発の方がよほど急務。まず夫婦各自の宗教心復活のために、当座はイワシの頭も信心からで、ホログラム（立体映像）利用のカード型・卓上型平面仏壇あたりの開発と普及が切に望まれる。——核家族

用カード仏壇

著者は誰しもが生活の中で「ふと思う」とことを基にして、「結びつけにくいことを結びつける、（電卓を片手に）数字を根拠にして常識を反転させてみる」。そして、上に紹介したようなユニークな発想が50項目近く、ユーモアを交えた独特の口調で語られる。数年前読売新聞の九州版に連載された記事をもとに加筆されたものである。

著者は九州産業大学でデザイン教育に携わる本意匠学会の会員である。

デザイナーにとって発想力の必要性は言うまでもないが、その卵の指導に当たる教師自身が発想力に富んでいなければ、学生を育てられない。著者の豊かな発想が、教育の場で学生を刺激しているであろうことが想像されるが、本書では著者の独特的な教育方法についても伺い知ることができる。例えば「論文100枚で美人になろう」の項では、数行人間の学生に論文百枚を書かせるまでの指導方法や、著者が以前から現代の若者の集中力の欠如に対する反証と多様な能力の開発のために学生に対して指導している「ミメーシス（模倣再現）・アート」に、学生が夏休み全部を費やしてまでのめり込む。指導の上の発想は、デザイン教育関係者にとっても大いに参考となろう。